

日本学術会議 課題別委員会
自然災害軽減のための国際協力のあり方検討委員会（第1回）
及び分科会合同会議 議事要旨

1. 日 時：平成22年6月2日（水）14：00～16：00
2. 場 所：日本学術会議 6-A（1.2）会議室
3. 出席者：濱田委員長、小松副委員長、市村幹事、直井委員、池田委員、浅岡委員、入倉委員、大町委員、小谷委員、川島委員、佐竹委員、竹内委員、田村委員、千木良委員、春山委員、和田委員、是澤委員、佐々委員、中埜委員、石井参考人、河原参考人、斉藤参考人、鷺坂参考人、鈴木光一参考人、鈴木良典参考人、塚原参考人、朴参考人、藤原参考人、古川参考人、増田参考人、望月参考人、吉倉参考人、小玉オブザーバー（欠席：今村委員、沖村委員、寶委員、福和委員、中邨委員、林勲男委員、林春男委員、堀切参考人）
（事務局）山中補佐、鳥生、田中、菅野 他
4. 議 題：1) 委員長の選任
2) 副委員長・幹事の指名
3) 委員会および分科会の設置趣旨説明
4) 審議の進め方について
5) 話題提供
外務省 国際協力局 緊急人道支援課長 河原節子氏
「日本の国際防災協力について」
5. 資 料：資料1 課題別委員会「自然災害軽減のための国際協力のあり方検討委員会」の設置について
資料2 自然災害軽減のための国際協力のあり方検討委員会及び分科会名簿
資料3 話題提供資料 日本の国際防災協力について
6. 議事概要
 - (1) 議題 1) 委員長の選任
委員の互選により、濱田委員を委員長に選任した。
 - (2) 議題 2) 副委員長・幹事の指名
濱田委員長が副委員長に小松委員を、幹事に市村委員を指名し、委員会の同意を得た。もう一名の幹事については、次回会合で指名することとなった。

(3) 議題 3) 委員会および分科会の設置趣旨説明

濱田委員長より、資料1に基づき委員会の設置趣旨および組織について説明があった。また、池田委員、和田委員、中埜委員、竹内委員より、それぞれ以下の分科会の設置趣旨説明があった。

分科会(1)「防災分野の国際協力に関わる基本戦略分科会」

分科会(2)「技術協力・被災地支援分科会」

分科会(3)「人材育成・国際ネットワーク分科会」

分科会(4)「国際プログラム連携分科会」

(4) 議題 4) 審議の進め方について

濱田委員長より、資料1に基づき審議の進め方について説明があった。

- ・ 課題別委員会の設置期間は一年間である。
- ・ 当初は月一回の頻度で委員会を開催し、各機関から活動報告を受けつつ課題抽出を図る。委員会日程は後日調整する。
- ・ 9月を目処に拡大役員会は国際協力の現状と課題についてとりまとめる。
- ・ 報告書素案を23年1月から2月にかけて作成する。報告書は20～30ページの本文および巻末の資料集で構成されるものとする。
- ・ 提言素案を23年3月に作成する。
- ・ 10月および23年4月の日本学術会議総会において中間報告を行う予定であるが、10月については審議の進捗を勘案しつつ実施を決定する。
- ・ 23年3月にはシンポジウムを開催予定である。

(5) 議題 5) 話題提供

外務省 国際協力局 緊急人道支援課長 河原節子氏

「日本の国際防災協力について」

資料5に基づき、我が国が実施している国際防災協力に関連し、防災協力の位置づけ、世界の自然災害の状況について概略の説明があった後、世界的な取組、地域的な取組および二国間の取組について具体例を交えて説明があった。

(6) その他 質疑応答

- ・ 課題別委員会の設置について、省庁等からの要請があったのか。また、どのような成果の発信のあり方を想定しているか。
 - 省庁等からの諮問は現時点では受けていない。今後の議論の内容により、その可能性もあるだろう。
 - 報告書は簡潔にとりまとめる。さらに日本学術会議として提言をまとめ、関係省庁・団体、報道機関・一般市民に対して発信する。